

2026.02.01. 神の救いの義 パート1
ローマ人への手紙3章21節から26節

Mac 牧師

主よ、ありがとうございます。私たちのこの賛美・礼拝が、あなたとあなただけのためであり、あなたというお方だからであることを、絶えず私たちに思い出させてくださいますか？ 音楽でもなく、アレンジでもなく、歌っているキーでもなく。ここに上がる人のためではなく、あなたという全能の神、すべての名にまさる名、あなたの御名を賛美・礼拝するよう私たちに召しておられるからです。だから今朝、私たちはあなたの御名を賛美するのです。心から感謝をささげます。主よ、今朝この建物に入ってきた人たち、オンラインで視聴している人たち皆をあなたに感謝します。主よ、偶然ではありません。主よ、今朝、私たち全員に語りかけ、私たちの思考を静め、研ぎ澄ませ、御言葉に集中させてくださいますように。主よ、マック牧師を感謝します。あなたの御心を行う力を彼に与え続けてください。これらのことをイエスの御名によってお願いします。アーメン。主を褒め称えます。ありがとうございます。どうぞご着席ください。あら、ありがとうございます！ 妻がスワップミートで、買って来たんです。50ドルだぜ～家族よ。いいでしょ。それが私たちのやり方です。(画面に向かって) ありがとう、ベイビー。愛してるよ、ハニー。君にはわからないだろうけど。君は僕に服を着せてくれ、気遣ってくれる❤️❤️❤️ ここまでにしておくけど。皆さんわかるでしょ。教会よ、おはようございます。良いスタートを切れました。J.D.ファラグ牧師の代理で、カルバリー・カネオへによるこそ。オンラインで参加の方も歓迎します。訪問者の方がおられたら、ここカルバリー・カネオへで直接受けるべき特別な暖かな愛に、もう祝福されていますように。いつものような、その愛をまだ受け取っていないのなら、私に言ってください。この礼拝後、対応します。純愛を倍にしてお届けします。では、次回の祈り会についてお知らせします。今週火曜日、2月3日午後7時から、この礼拝堂で行います。可能なら、ぜひいらっしゃって、教会体の祈りにご参加ください。この礼拝堂を祈りの戦士で満たしたいです。でもスケジュールがタイトであることも、忙しい時期であることも承知しています。参加できないなら、あなたがどこにいても、どうか私たちのため、祈り会のため祈ってください。絶え間なく祈ることを忘れないでください。とても重要です。私たちには、祈り、祈り、祈る能力がある。それを活用する必要があります。でしょ？ 可能なら火曜日にお会いできるのを楽しみにしています。続いてお知らせするのは、ケリー・ファラグの人生と永遠のいのちのお祝いです。今度の土曜日2月7日、午前11時からこの教会で行い、その後昼食会があります。オンライン・チャーチにも、その模様はすべてハワイ標準時間午前11時から、JDFarag.orgのウェブサイト、モバイルアプリ、Roku、ソーシャルメディアプラットフォームでライブ配信します。また、その時期に島を訪れる、あるいは訪れる予定の皆さんも、ケリーの人生と永遠のいのちへのお祝いに、ぜひ来てください。来られる場合は、10時にお越しください。私たちも落ち着いて、お祝いへの備えの前に、親睦を深める時間を楽しみにします。これに加えて、J.D.牧師は、2月12日(木)から説教壇に戻ります。「ゼカリヤ書」の聖書の学びを再開する前に、妻の死について率直に語り、「エゼキエル書24章15節から27節」で題材のメッセージをします。また、2月15日(日)から「聖書預言・アップデート」「説教メッセージ」を再開し、全て、オンラインのためにもライブ配信します。ですから、彼の復帰を祈ってください。状況が違ってればよかったのですが、愛する姉妹がイエスと共にいることをとても感謝しています。彼とご家族のために祈り続けてください。日曜日の朝は、礼拝が2つあります。第一礼拝、通常は「聖書預言・アップデート」に捧げ、第二礼拝は、「説教・メッセージ」です。でも、皆さんご存知の通り、現在、「ローマ人への手紙」の節ごとの学びです。3章21節からをご覧ください。26節まで読みます。今朝のこの聖句を朗読するのに可能な方は、ご起立ください。そのあと祈ります。「ローマ人への手紙3章」、21節から、神の御言葉をお読みします。

— ローマ 3:21 —

しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。

— ローマ 3:22 —

すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。

— ローマ 3:23 —

すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

— ローマ 3:24 —

神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

— ローマ 3:25 —

神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。ご自分の義を明らかにされるためです。神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃してこられたのです。

— ローマ 3:26 —

すなわち、ご自分が義であり、イエスを信じる者を義と認める方であることを示すため、今この時に、ご自分の義を明らかにされたのです。

なんと・・・さっそく祈り、神に祝福を願い求めましょう。

天のお父様、おお、私の主よ、まず初めに、あなたの真理の御言葉に心から感謝します。あなたの御言葉を聞くため私たちが集まれることを感謝します。主よ、特に今読んだ今朝のこの箇所、独特なご方法で私たちと出会ってくださいますように。非常に重要な箇所、それを完全に理解するには、あなたの聖霊の御力なしでは、私たち自身の力ではどうすることもできません。どうか今、新しい新鮮な油注ぎで私たちの杯を満たしてください、あなたの御霊と御力のパワーでみなぎらせてください。ですから今、私たちの前を行かれ、私たちを備え、安定させてください。イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

ありがとうございます。ご着席ください。さあ、今朝の第一礼拝の御教えのタイトルは『神の救いの義』です。パート1だとお気づきでしょう。信じようと信じまいと、これは1回での学びにするつもりでしたが、それではまったくうまくいきませんでした。ですから、6つの節を読みましたが、この学びでは最初の2節しか見ません。私は本当に努力しました。皆さん笑ってますけど、マジです。ええ、それを押し通そうとしましたが、そうはいきませんでした。でも、この学びに関して、とても素晴らしい知らせがあります。それは、教会として、私たちがついにこの箇所にいること。それがわかりますか？ 私たちは、「ローマ人への手紙」のセクション2として知られる地獄の箇所から抜け出たのですよ。だから、この御教えが始まって以来、私たちが経験してきたすべての後に、今、ようやく神の恵みが全貌を現すのを見れる箇所にいます。今読んだ聖句を、多くの神学者が、人類史上最も重要な段落だと考えます。そして、私は皆さんに言います。私は彼らに心から同意します。それは神のいつくしみ深さで満たされ、義で覆われ、愛で封印されています。だから、これまで論じられたことが何であれ、それがどんなに厳しかったとしても、今日ここで語られることをより甘美なものにしてくれますそれがポイントです。なぜなら、神のご叡智において、私たちの多くが無知で最低レベルまで打ち砕かれなければならないことを知っておられるからです。非難されるのではなく、神の知識によって真に築き上げられるために打ち砕かれます。それが事実です。これこそ、私たちが「ローマ人への手紙」の御教えを通して証ししてきたことです。そして、重要点は、すべては神の愛のおかげ。なので、今から「ローマ人への手紙」のセクション3に入ります。そしてこのセクションには、神の義の提供に関する詳細が書かれています。詳細というのは、詳細だからです。それが、今日3章を学び終えない理由の1つです。そうであっても、これらの聖句に含まれるすべての情報を分けて理解しようとすると、伝えられていることの意味を簡単に理解するだけでも数ヶ月、それ以上を費やしてしまうと言えます。大事なことは、実はセクション3は、4章の終わりまで続き、神の義の側面は、8章までずっと語られます。さて、もうひとつの良い知らせは、もし、4章まで進めるなら、“もし”ですけど、私たちは多くの内容に精通し、あなたがそれを経験することで、もし、それを経験するなら、あなたにも、私たち全員にも、より良い理解を得る機会が与えられます。信仰に関して、大部分を経験してきているからです。でもこのセクションにはまだ多くのことが含まれるので、皆さんの学習リストに加えることをお勧めします。そうしてください。主が表現されていることで、あなたが非常に祝福されるのは、間違いないからです。つまり、私たちが待ち望んでいたのはこれです。このセクションで、倍の時間を自分に使うことが本当に重要だと思います。前のセクションでしたように。教会よ、私の気持ちわかりますか？ ええ、私たちが共に過ごせる時間は残念ながらありませんが、ええ、主が導いてくださる通り、自分たちでしましょう。先週、セクション2を『人類は罪の下にある』と題した御教えの中で学び終わりました。論じた通り、これは基本的に、全人類が罪の重圧の下で非難されていることを示す要でした。罪の下にあるということは、罪によって非難されるということで、罪に支配されているということでもあるのを話しました。これらのことはすべて、神の義を達成できないことの上に成り立っています。その理由は、神の義がなければ、罪によって私たちは完全な墮落状態に置かれます。さらに、完全な墮落の定義とは、人間の構造のあらゆる側面が罪によって悪影響を受けることです。まったくの真実です。考えてみてください。私たちがキリストのもとに来た後、まだ罪によって否定的な影響を与える。良い知らせは、私たちは救われている。だから、罪が私たち一人ひとりに及ぼす悪影響を認識できるようになるべきです。なぜなら、私たちはもはや罪に惑わされてはならないからです。でも神の義がなければ、私たちは皆、絶望的です。全人類は、自分たちの何かが間違っていることに気づかなければなりません。わかりますか？ 人類は、本当にいろいろな意味で混乱しています。でしょ？ 理由は？ 罪です。使徒パウロが「詩篇」、「イザヤ書」、「箴言」の記述で、導いてくれたように、結局のところ、人類の完全な墮落を物語る聖句のコレクションです。だから、完全な墮落とは、その語る通りの意味だとわかるでしょう。それは私たちの人格、行動、良心を包含するからです。そしてこれが、全人類が直面せねばならない現実です。これが私たちの概要です。それが、使徒パウロが「ローマ人への手紙1章」以来、ずっと言い続けてきたことです。彼の主張の一部は、律法に関するもので、でもモーセの律法だけでなく、人間の生まれながらにある律法に関して。そして、人間の生まれながらの律法の中で、神の律法の正しさ

が理解できます。罪が全人類にはっきりと知らしめられるのは、神の正しい掟の中です。そうやって、3章19節と20節を終わり、それは、罪の知識に関して、今述べたことに通じます。そして、その知識のゆえに、どんな肉にある者も、どんな人間も、自分では神の御目に義とされません。これが今学んでいる箇所です。では主のお許しをいただいて、この最初の2節を、神の義が付与されることでの、私たちの義を考察することに大半の時間を費やしなが、解説します。それが、私たちが神の御目から見てどのように義とされ、また、神の救いの義の驚くべき緻密な御働きを見るために、信仰がどのように勝るかを語ります。それは、イエス・キリストの福音のシンプルさを信じることによって、全人類に提供されます。教会よ、よろしいですか？ ということで、今日の21節、神の御言葉をお読みします。

ー ローマ 3 : 21 ー

しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。

ここで使徒パウロは、「しかし、今や」という文言で始めます。そしてこのことは、彼がこれまで話していたこととは異なる話を私たちに示します。この転換には、少なくとも2つの重要ポイントがあります。1つは、私たちが今生きているこの義の時代のような時間枠に関してで、これは、それがもたらすもののゆえに、新しいタイプの義の意味合いです。キリストの死、そして埋葬と復活によって、それに関するすべてが始まりました。でも、キリストの贖いの血が鍵です。それが失われることはありません。またこれも「しかし、今や」、神の義が、今、人の不義と比較して、どのように知られているかを語ります。ですから、私たちが目撃しているこの転換の一部として、この両方の要素が作用しています。なんという転換でしょうか。私たちにこの転換が必要なのですよ。その他にも、私たちが「しかし、今や」を強調すべきです。簡単に触れたように、私たちはこの「しかし、今や」の中で生きています。ですから、神の義を公言するだけでなく、表わすこと、今、啓示されていることを表わすべきです。それがメッセージです。なぜこのようなことを言うのかというと、私たちはしばしば、神の義の十字架の歴史的な完成前の多くに固執してしまいその多くがこんにち私たちが経験していることの伏線だったのを説明しないことがあるからです。教会よ、聞いていますか？ あるいは、この新しい啓示がどう変わるのか、神は私たちをご自分の子としてどのように見ておられるのかを。神のご計画は決して変わりませんが、人間への扱いは変えられました。そしてそうやって、それが常に私たちの益です。それが今からわかります。だから、私たちが神の話 (His Story)のどこにいるのか、覚えておきましょう。いいですか？ これが今いるところです。神の御言葉に従って、私たちはそれを抱擁すべきです。これは、私たちがその一部となることを許された驚くべき時代です。私たちはその中で生きていて大変祝福されています。21節に続き、啓示されたものが、律法とは別に神の義だとわかります。さあ、これはキリストが成し遂げられた結果から、生み出し続ける私たちが知っている完了した行為を意味します。でも、この神の義に加えられるものは何一つありません。

「完了した」(ヨハネ 19 : 30)

そしてこれが、控えめに言っても違いを生み出す要因です。キリストが律法を成就させる前は、イスラエルの民の義は、誰も守ることのできない律法によって行わねばならなかったからです。でも、単なる人間が律法を守る方法があったのなら、義は当然その人に与えられたはずです。「申命記6章」、24節と25節、神の御言葉をお読みします。

ー 申命記 6 : 24 ー

それで主は、私たちがこのすべての掟を行い、自分たちの神である主を恐れるように命じられたのである。今日のように、いつまでも私たちが幸せになり、私たちが生かされるためである。

ー 申命記 6 : 25 ー

(それゆえに) **私たちの神、主が命じられたように御前でこのすべての命令を守り行うとき、それは私たちの義となるのである。」**

この「もし～守り行うとき、そうするなら」、これは大きな仮定の「もし」で、決して起こり得ません。これが神の神聖なるご設計だと知っています。なので言い換えると、義の律法は正しい掟である。人間には守れない。でも、こうならざるを得なかった掟。あらゆる点で、その性質上完全に正しい。神の義だから罪深い人間は守ることができない。よく聞いてください。考えてみてください。罪深い人間が神の正しい掟を実際に守れたとしたら、それは神について何を物語るのか？ 教会よ、聞いていますか？ それができる人を罰するのは、神を不公正にします。なぜなら、その罪深い人は、罪深い状態にあっても、主の御前に義となる能力を証明したことになるからです。それは、律法そのものに疑問を投げかけることになります。だからこそ、神の義は神ご自身によってのみ、なされる要件で、全人類の手の届かないものでなければならない。それが鍵です。だから罪深い人間はできない。でも神の人にはできる。だからイエスはなさいました。ではその理解をもって、私たちが自分自身に問い、また答えねばならないのは、神の義とはいったい何なのか？

と同時に、神の御目に義とされるとはどういう意味なのか？ というのも、このような質問の背後にある意味を特に、十分に理解していなければ、そうなれば、私たちの歩みに悪影響を及ぼします。そしてこれが今

から、見ていくことになると思います。じゃあ、これを言わば根本から取り組みましょう。神の御目に義とされるとはどういう意味なのか？ この問いについて考えてみてください。特に、義という語彙が聖書全体でどのように使われているか、とても重要です。しっかりと認識しなければなりません。義とは、神の神聖なご性質やご性格を意味すると同時に、私たち“人間の性格”の側面が時に義と呼ばれることもあります。聖書にあります。聖霊に力付けられる義もあります。他に劣らず重要なのは、付与された義は、「義認」に結びつく。それが神の御前で私たちを義とする義です。「義認」という言葉に入る前に、一度信じれば生じる、神の御前で義とされるとはどのようなことなのか、もっと鮮明に描いてみたいと思います。祈りを込めて、今から見るのは、神の御前に義とされる意味だけではなく、それと同じくらい重要なのが、何がそれを意味しないかです。ですから改めて、私たちが信じる通り、神の御前で義とされると何が起こるかを理解するために、このすべてを減速させて学んでいきます。皆さん、大丈夫ですか？ OK！ なぜなら、そうすると、神の御前に義となるためには、「人は神の正しい裁きを受けねばならない」ことがわかります。忘れないでください。この学びを減速させていますよ。「ローマ人への手紙」だけを見ても、至る所でこのことが強調されているのがわかります。でも聖書全体に、はっきりと強調されています。神の裁きはあらゆる点で完全に正しい。人が信じるようになる理由は、その正しい裁きを認識するからです。特に罪に関して。私たちの罪と世の罪を贖ってくださるのは、罪をまったく知らないキリスト・イエスです。この世の罪のすべてを背負い、神によって正当に裁かれることで、信じ、認めるすべての人の義の行為となった。神の御前で義とされるために必要なもう1つは、「人は、神の正しい裁きを受けねばならない」こと。「ローマ人への手紙」にも、このことが記されています。どんな、あらゆる人が裁かれる基準は、神の真理という基準です。なぜなら、神の真理の御言葉によってのみ、道徳は正しく裁かれるからです。私たちは、全人類が神の正しい裁きの下に置かれるのを知っています。最後に、神の御目に義とされるためには、「人は、神の義によって義とされなければならない」これがわかりますか？ これこそが鍵です。神の御前に義とされるためには、神の義によって義とされることが「義認」で、その「義認」は神の義によってもたらされる。そこで、神の義が示される前に、この「義認」という言葉を見てみましょう。「義認」の単純明快な定義があります。「義認」とは、正当な行為、公正、または法律に適合している。わかりますか？ 正当を法的見地から見るための設定なので、これは非常に重要な定義です。神の律法に関する法的観点、この観点から見なければなりません。実は、非難は法律用語でもあり、正当の反対語です。そして、裁きを下し、正当なのか、非難するかには、両者を比較する基準が必要です。その基準は律法に従っていなければなりません。なぜなら、もし律法がなければ、下される裁きは不当になるからです。考えてみれば、人類の歴史上、人類がどのように生きるべきかについて、神が人間に望みを与えないような時代はありませんでした。一度もありません。すべての指示、生ける神の御言葉が神の律法である。以上。忘れないでください。生まれながらの律法も、神によって全人類の中に置かれています。その例を挙げましょう。カインが弟のアベルを殺したことを覚えていますか？ 私たちは皆、その記述を知っています。殺人に関する律法ができる前にそれが起こりました。そのことに気づいていますか？ しかしながら、カインはそのために罰せられました。なぜなら、神の義の裁きと人間に与えられた生まれながらの律法があるから。でも留意すべきは、カインは死刑にされなかった。教会よ、聞いてます？ 皆さんへそれを宿題にします。さあ、「義認」に戻り、人が、神の御前に義とされる唯一の方法は、神の義によって義とされることで、義とされるには、正しい審判の裁きが必要です。そして、それは完璧を意味するので、その完璧な裁きに基づき、全人類を失格とします。どこへ向かっているのかわかりますか？ しかし、神は、この義を得るための解決策を与えてくださいました。「ローマ人への手紙 1章」、16節と17節で見ましたね。神の御言葉をお読みします。

— ローマ 1：16 —

私は（キリストの）福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。

— ローマ 1：17 —

福音には神の義が啓示されていて、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。

なので、一周して元に戻り、キリストの福音に神の義が含まれていることを見、神の義を得るためには、人は信仰を持たなければならない。そして、ここで語られている信仰は、特に、キリストの福音、死、埋葬、復活です。でも、神への信仰、救いは、常に神の義を得るためのものだった。聞いてます？ それを理解することが重要です。これがずっと基準でした。すべては信仰。では、今日の21節に戻り、律法の目的も思い出してください。それは決して人間には守れない。不可能だから。律法は正しく義で、主の御目に尊い結果をもたらすとわかっている。でも、今朝の復習でお話したように、律法とは罪を知ること、罪を顕にします。そして、律法への信仰は、救いを生み出さず、生み出さず、生み出さない。主を信じることによるのみ、救いはもたらされる。この律法は、キリスト以外

の誰にも守ることはできませんが、神の約束を信じる信仰は、信じる者に神に義と認められる。聞いてます？ 私たちは、神の義に関するこの信仰を、この有名な聖句に見て取れます。前にも説明したように「創世記 15 章 6 節」にあります。神の御言葉をお読みします。

一 創世記 15 : 6 一

アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。

私が赤でマークした語彙こそ、私たちが注目すべき語彙です。そしてそれは「accounted/認められた。」英欽定訳聖書では、そう表記されています。ヘブライ語でこの語彙を見ると、「impute/転嫁・付与する」

「reckon/見なす」という意味です。また、義と認められるというのは、会計用語で計上する、または付与するで、本質的に外的なものです。つまり、信じる者の上に神の義を覆い、着せる。でも、信者の中に義が注入されるわけではありません。教会よ、聞いていますか？ 今まで注意を払っていなかったなら、今注意を払ってください。神の義は着るもの、覆うものであって、信じる者に神の義が注入されるのではない。これは極めて重要です。私たちはこのことをしっかり理解する必要があります。そして、この神の義を纏うとは、新しいことではありません。聖書全体に、この真理があります。「イザヤ書 61 章」、10 節と 11 節、神の御言葉をお読みします。

一 イザヤ 61 : 10 一

私は主にあって大いに楽しみ、私のたましいも私の神にあって喜ぶ。主が私に救いの衣を着せ、正義の外套をまとわせ、花婿のように栄冠をかぶらせ、花嫁のように宝玉で飾ってくださるからだ。

一 イザヤ 61 : 11 一

地が芽を出し、園が蒔かれた種を芽生えさせるように、神である主が、正義と賛美をすべての国々の前に芽生えさせるからだ。

繰り返します。専門的に言うと、私たちは義に造られているのではなく、主の義を付与されるのです。というのも、覚えておいて欲しいのが、神の義だけが、神の御目から見て正しい者となるのです。神は完全な義を見なければなりません。それは義なるお方ご自身によってのみなされます。ですから、神が私たちをご覧になるとき、キリストこそ、神が目に見えるお方です。そして、私たちの義はすべて？ 不潔な衣。

(イザヤ 64:6)

私たちの不義じゃなく、真の生ける神と比較して、私たちの義がすべて不潔な衣のよう。つまり「義認」とは、信じる者すべてが神の義を永遠に着ることを宣言する、裁き上の神のご決定なのです。ある解説者が指摘しているように、これはキリストの復活との関係ではなく、キリストが何のために死なれたのか、つまり人類の罪に基づく。結論は、私たちは主の義を付与されているということです。そう、聖霊が宿っている私たち信者であっても、だからといって、私たちを義にするものではありません。私がこの件に多くの時間を費やし、この件を大々的に取り上げる理由は、キリストの義が注入されているという見解を支持するいくつかの教派があるからです。そしてこの考え方には、キリストの義のゆえに、私たちが信者になった際に起こる内的な義の変革に自動的なものがあるという教えが含まれます。聞いてます？ そのような観点から義を見ることは、失敗のお膳立てです。それは、「今や私たちは義人だ。」との霊的意味合いに基づいて、肉体的変化を即座に期待することになるから。♪キリスト教の兵士たちよ、戦場へ進軍せよ♪ 思いませんか？

「ああ、私は変わったんだ」と感じる。「私は義だから」と。聞いたことがありますか？ そして最初のラウンドが終わると、すぐにピーン！！ あなたは恐怖のどん底にいる。それだけでなく、その教会の人々は、本来あるべきでない大きな期待を新しい信者にかけてます。そして、それが許されたとき、多くの人は、誰かが期待していたような歩み方ではないため自分自身が完全に敗北していることに気づく。「信者じゃないんですか？ 義なんですよ。」と。悲しいことに、私たちがキリストのもとに来ると、何が起こるべきなのか？

私たちの主で救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長するために、真の生ける神との霊的な関係を培うため助けられるべきです。そうすることで、キリストの人格を反映するような変化を私たちにもたらす。でも、これは信者になったとたんに自動的に起こるものではありません。ええ、多くの人々がキリストの福音に、心理的にも身体的にも、即座に肯定的反応を示し、その悪癖はすぐに晴らされ、一生抱えていた悪癖が取り除かれる。私はそれを知っています。しかし、それは、神の恵みであって、神の義が注入されたのではない。そこが違いです。私たちはこのことを理解する必要があります。さあ、この点について、もちろん聖書を活用して証明したいと思います。キリストが世の罪を背負われたことに関して、私はそうしようと思います。この聖句を参照します。「第二コリント人への手紙 5 章」、21 節にあります。神の御言葉をお読みします。さあ聞いてください。

一 II コリント 5 : 21 一

神は、罪を知らない方（キリスト）を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方にあって神の義となるためです。

これがわかりますか？ よかった。ですから、私たちが自問しなければならないのは、キリストが全人類の

ために罪とされたとき、キリストは罪びとになったのか？ ん？ 答えがない？ 答える人はいない？

(会衆：なっていません！) なっていません！ 神よ、ありがとうございます。ね？ 罪はキリストに付与されましたが、キリストは聖霊によってお生まれになったので、罪の性質を受け継がれませんでしたね。また、罪がキリストに付与された際に、罪の性質はキリストに注入されていません。そしてこれは、キリストのおかげで得られる私たちの義についても同様です。罪がキリストに注入されなかったように、義は私たち誰一人にも注入されません。また、罪を知らなかったキリストとは違い、私たちは皆、アダムに似た肉を持って生まれたので、罪の性質を遺伝的に受け継ぎました。私たちは神の似姿に創造されました。でもアダムのように生まれた。だから、私たちは新しく生まれ変わらなければならないのです。ですから、たとえ私たちが自分の罪によって非難されなかったとしても、どうです？ アダムの罪のせいで、私たちはまだ非難されている。さあ、今日の 21 節に関して、最後にもう 1 つ見ておきたいことがあります。「律法と預言者たちによって証しされた」神の義を扱わなければなりません。ご存知の方も多いと思いますが、「律法と預言者たち」という文言を見ると、これは旧約聖書全体を語ります。この文言が非常に強烈なことの 1 つは、神の御言葉が決して神の律法に反さないのを証明していることです。わかりますか？ 事実、パウロの語ることは、律法および預言者たちの正当性を何らかの形で裏付けます。なぜなら、それはすべて救世主ご自身を確証するものだから。この文言が力強いもう 1 つの理由は、この文言を聞くすべての人の思いの前面に、これらすべての現実を浮かび上がらせるからです。パウロが誰と話しているのか思い出してください。彼らは、これは秘密でも何でもないと気づいている。今までも決して。ユダヤ人と言えば、彼らは何の番人だったか？ 律法と、書かれた神の御言葉。ですから、使徒パウロが論じていることはすべて、彼ら自身が詳細に調べられます。旧約聖書の中で明かされなかった奥義や秘密は、教会そのものに関係します。でも、救いの計画や、救世主を信じることによって救われることは、聖書全体で語られていて、「律法と預言者たち」を意味します。そして、彼の兄弟たちにこれらすべてを完全に認識させることは、難題でした。

また、彼らを完全に理解させるのに、神の御言葉を指し示す以上の方法があるでしょうか。使徒パウロを例にして、これを私たちの教訓としましょう。私が言いたいのは、時に聖書の中のトピックが話に上がると、私たちはそれについて非常に詳しい。前から後ろまで知っている。その分野で使徒パウロのようなスキルがある。でもたとえそうでも、詳細な説明をするなら、相手には常に神の御言葉を指し示しましょう。常に。裏を返せば、もし私たちがこの指示、この詳しい説明、この詳しい解説を受ける側なら、ベレア人になって、自分自身で調べましょう。これは私たちの責務です。だからといって、神の御言葉を教える教師たちから教わるができないのではありません。いいえ、違います。でも大事なことは、自分で調べること。ロシアの古い諺に、「信用しても、検証しなさい。」ね？ 多くの真実でしょ。私たちは自分のためにそうする必要があります。私たちは神の御言葉を探し求めながら、神と交わる必要があります。その時間に起こることは、それなしには得られません。教会よ、聞いていますか？ 今日の 22 節、神の御言葉をお読みします。

一 ローマ 3:22 一

すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。

そこに差別はありません。信じる者すべてに神の義を付与されるイエス・キリストへの信仰を持つことに関して、すでに信仰の部分の大半を見てきました。ローマにいる信者たちにとって、これはキリストを信じる信仰がどのようなものを固める始まりとなります。そして私たちにとって、はっきり確信しなければならないのは、私たちの信仰の対象はキリスト・イエスであること。だから、私たちが持っている信仰がどんなに小さなものであっても、それがキリスト・イエスへの信仰である限り、信じる者すべてに神の義が付与されます。この節の最後で、パウロが語ります。「そこに差別(違い)はありません。」それは全人類に語りかけるものです。でも、私がこの信仰の部分を強調する理由は、ある教派がキリストへの信仰を、信者として聖書的でない方法で見ているからです。それが"saving faith/救いの信仰"の教義です。この教義にはさまざまな側面があります。でも私たちはそれらに関連するいくつかの共通基盤が誤っていることを認識する必要があります。教会よ、聞いていますか？ というのも、"救いの信仰"とは、良い行いによって証明される信仰というのが、この方向に傾く人たちの考え方の核だからです。これは聖典が語ることはありません。実際、たくさんの善行を積んでいる人はたくさんいます。でもキリストへの信仰はまったくない。その一方で、キリストを、キリストだけに信仰がある人たちがいますが、クリスチャンとして肉欲的な生活を送っている。その信仰を持つ私たちは、一人ひとりが善い行いをするようになるのを心から信じます。でも救いは、行いによって証明されるものではまったくありません。また、この"救いの信仰"を支持する人々は、"救いの信仰"が神の命ずるものを生み出すと示します。これがわかりますか？ 私は、神への信仰を持ち、神の御言葉で成長することが、神の御言葉に従うことを確信させるはずだと理解します。でも繰り返しますが、これは救いについて使われる尺度ではありません。仮にそうだったなら、信仰を持つようになった人は、どの時点でそれが達成されたと考えるのか？ でしょ？ その判断は誰が下すのか？ これは"ロードシップ・サルベージョン"へとつながります。(真の信仰表明は信仰の証拠によって裏付けられるという教義)

人々に推測や疑問を抱かせます。「私は救われているのか？」と。有名な神学者、カルヴァン主義者、ロードシップ・サルベーション主義者がいて、死に際に「信仰を失わないように祈ってください」と人々に願ったそうです。それを考えてみてください。私が言ったことを聞きましたか？ 最後に、この“救いの信仰”の教義を支持する多くの人々は、この“救いの信仰”は、神からの賜物であるとも信じます。さあ、考えてみてください。私たちは聖書の中で、すべての人に信仰の尺度が与えられていることをすでに見てきました。そして、その信仰の尺度によって、誰に、あるいは何に信頼を置くかを決められます。ですから、神の賜物で“救いの信仰”というカテゴリーを持つことは、聖典が語ることはありません。神の御言葉が語るのは、神はより多くの信仰を賜物として与えられる。霊的賜物であって、救いの信仰ではありません。覚えておいてください。この“救いの信仰”の教義については、いくつかの異なる説明があって、その内いくつかは、実際に説明するのは、キリストだけを信じる信仰と一致させています。でも、結局、間違いの規定を散りばめています。人々は歴史的信仰、知的信仰、そして失敗する信仰について語り、そして、この“救いの信仰”と比較します。時間をかけて成長することができるからと。ここで何がされているかわかりますか？ ええ、私たちの信仰は確かに成長できます。しかし、この教義が語る方法は、信仰対象を“自分たちの信仰”とします。それがわかりますか？ 私たちが不信仰であっても、私たちの信仰の創造者で完成者であるご忠実なお方に焦点を当て、それを信じずに、信仰を測られるのは主だけです。救いに必要な唯一の信仰は、信じる信仰です。なので、信仰を疑っている人には、「ヘブル人への手紙 11 章」を見ることをお勧めします。ゆっくり読んで、主があなたに語りかけてくださるようになしてください。というのも、この章は、この“救いの信仰”の教義を持つ人々の多くが、この章に来たがるからです。なぜなら、彼らは信仰とは何か、それがどう何かを生み出したかを見るからです。でも彼らは、それを詳細に見ているわけではありません。これは私たちにとって励みであると同時に信者はもとより、誰に信頼を置くべきかを見失うことない指標となるはずです。この 1 節から 6 節までを見て味わいましょう。神の御言葉をお読みします。

— ヘブル 11:1 —

さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

この 1 節でシャットダウンすべきです。ここから何か要求されていますか？ ん？

— ヘブル 11:2 —

昔の人たちは、この信仰によって称賛されました。

— ヘブル 11:3 —

信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、その結果、見えるものが、目に見えるものからできたのではないことを悟ります。

皆さん、わかりますか？ そして、4 節からが彼らの出番です。でも、信じてください。全文を読めば、彼らが行ったり来たりしているのがわかるはず。結論は信仰です。

— ヘブル 11:4 —

信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神に献げ、そのいけにえによって、彼が正しい人であることが証しされました。・・・

皆さんわかりますね。

・・・神が、彼のささげ物を良いささげ物だと証ししてくださったからです。彼は死にましたが、その信仰によって今もお話しています。

— ヘブル 11:5 —

信仰によって、エノクは死を見ることのないように移されました。神が彼を移されたので、いなくなりました。彼が神に喜ばれていたことは、移される前から証しされていたのです。

彼はどうやって神を喜ばせたのか？ “信仰によって。”

— ヘブル 11:6 —

信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。

これは、信仰によって神の御言葉に耳を傾け、神を信じたさまざまな信者の一例です。これも、他の多くの例と同じように、信仰そのものに関して、それ自体を追加教義として提示するような、信仰に関する他の言葉を持つ必要はありません。では締めくくりにあたり、今日の 22 節に戻って、私が言いたい要点は、イエス・キリストの完成された御業への私たちの信仰がそれだということです。それが信仰です。何となく持っているはずの信仰とは違います。キリストへの信仰です。そして、他の人が指摘しているように、聖書のどこにも、ある種の特別な信仰、特別に信じる“救いの信仰”について語っている箇所はありません。いいえ、あなたが信じるか信じないかです。繰り返しますが、神から与えられたどんな信仰によっても信仰は、キリストだけを信じる信仰です。では、使徒パウロのように話しましょう。私たちは、結論づけます！ —

(笑) — 信仰は、救いを稼ぐための功績ではありません。それ以外の何でも、イエス・キリストの福音の

シンプルさを奪うことになって、それを複雑な信仰の難題にします。そして、この神の義の約束は、私たちすべてのためにあります。私たちは皆、救い主が必要な罪びとだからです。そこには何の違ひもありません。今朝の第一礼拝の学びはここで終わります。主の御心なら、第二礼拝でパート2に飛び込み、最終的にイエス・キリストに見出される、この驚くべき神の義を証しし続けます。ご起立ください。

天のお父様、おお、私たちはどれほどあなたの御言葉を愛しているでしょうか。とても心地よいです。あなたへの信仰のおかげで、すべての恐れが取り除かれます。

主よ、あなたの御言葉を複雑にさせないでください。あなたの御言葉はとても詳細で、私たちはあなたの完全な知識を得るためすべてを調べあげることにはできませんが、あなたが啓示されたことは十分すぎるほどです。そして、私たちは永遠にあなたに恩義を感じます。永遠の命を感謝します。私たちがあなたを選べるように、私たちに信仰の尺度を与えてくださったことを感謝します。私たちが選ぶのはあなたです。ですから、主よ、私たちの前を行かれ、私たちがあなたに目を据え、あなたをもっと知りたいと願う心を持たせ続けてください。そして、私たちがあなたを探し求めるとき、あなたが私たちの人生で、また人生を通してしてくださるすべてに前もって感謝します。イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii 筆記 hukuinn7